

大津南部これから会議 資源整備表

| 項目 | | 全域での資源の状況 | 南部の資源の状況 | 現状と課題 | 必要な支援と資源 | 障害福祉計画 26年度実績値 29年度目標値 | 障害福祉計画 29年度実績値 32年度目標値 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021以降 |
|-----|--------------|--|---|--|--|---|--|---|--------------------------------|--|---------------|
| 相談 | 専門 | ・大津市こども発達相談センター(基本中学生まで) ・発達障害者支援センターかほん | | ・発達障害のある方の乳幼児期から学齢期、青年期、成人期の切れ目のない相談、フォロー体制の確保。 | ・かほんと委託相談支援事業所の役割整理 ・発達障害の方のライフステージ間での切れ目のない相談支援体制の整備 | | | | | | |
| | 委託 | 11箇所 | じゅぶ、いるか、みゆう、スマイルライフ生活支援センター、Quocare、やすらぎ | ・委託相談支援事業所が3カ所増える。また、指定特定相談支援事業所も1カ所増える。 ・相談支援専門員の数が不足している。 ・サービス等利用計画の作成に委託相談支援事業所も追われて、時間をかけて対応しないといけないケースに時間を割く事が出来ない。 ・認定調査も委託相談支援事業所が担っているため、業務過多の状態。 ・単独又は少人数の職場であるため、相談員が孤立しがちで、スキルアップやスーパーバイズを受ける機会が限られてしまう。 | ・基幹となるセンターの設置も含めて、委託と指定特定の相談支援体制の役割整理と支援体制の再編。 ・セルフプランの方の計画相談への移行するための相談支援専門員の確保。 ・相談支援専門員の質の向上に向けた研修体系とスーパーバイズできる圏域内の体制整備。 ・相談支援専門員と別に認定調査員の確保が必要。 | ・平成26年度8か所 ・平成29年度8か所 | ・平成29年度8か所 ・平成32年度11か所 | | | ・基幹相談支援事業所の設置。 | |
| | 指定特定 | 指定特定のみ事業所6箇所 | ひなた、彩葉ケアサポート | | | ①計画相談 ・平成26年度105人・月 ・平成29年度201人・月 ②障害児相談 ・平成26年度19人・月 ・平成29年度41人・月 | ①計画相談 ・平成29年度188人・月 ・平成32年度290人・月 ②障害児相談 ・平成29年度76人・月 ・平成32年度105人・月 | ・指定特定相談支援事業所の整備。相談支援専門員の確保 ・共生シンフォニーが相談支援の立ち上げを2020年度に検討 | | | |
| 暮らし | 地域拠点となる住まいの場 | ・施設入所支援は大津市内は1箇所のみ ・短期入所は市内3か所 ・伊香立の杜 ・むくの木 | *施設入所支援 ・ステップ広場ガル *短期入所 ・ステップ広場ガル ・伊香立の杜 ・むくの木 | ・知的障害の方の場合、市内に1箇所しかないために市外や県外の施設に入所される方が多い。また、県外の施設から戻りたいとの希望が多い。 ・身障療護の施設が市内になく、県内5箇所の施設に入所するか、県外施設に行くしかない。 ・ショートの利用人数や契約者が増加してきている。 | ・重度の方の住まいの場に関して地域生活支援拠点事業の整備の検討 ・入所からホームへの移行に関して、行動障害や重介護の方の利用可能なホーム整備をどう進めていくか ・むくの木の移転先の確保 | ・平成26年度176人・月 ・平成29年度165人・月 *短期入所 ・平成26年度290人・月 ・平成29年度423人・月 | ・平成29年度173人・月 ・平成32年度173人・月 *短期入所 ・平成29年度279人・月 ・平成32年度426人・月 | | ・障害児協会が一里山に重心対応の重装備のホームの整備を検討。 | | ・ガルの敷地内ホームの整備 |
| | ホーム | ・38箇所 | ・しが夢翔会:6か所 ・美輪湖の家大津:1か所 ・ノエル福祉会:3か所 ・おーるすまいる:1か所 | ・精神障害や身体障害の方が入れるホームが少ない。 ・キーパーの確保(高齢の人が多い) ・消防設備や建築基準方が厳しく、物件探しやホームの設備投資に多額のお金がかかる。 ・重度化と高齢化への対応 | ・ホームから単身生活やシェアハウスへの移行に向けた支援 ・自立生活援助の活用 ・地域への啓発活動 ・支援者の確保に向けた広報活動 ・物件確保に向けた行政の協力。公営住宅の活用も含めて | *ホーム ・平成26年度220人・月 ・平成29年度313人・月 | *ホーム ・平成29年度260人・月 ・平成32年度320人・月 *自立生活援助 ・平成32年度15人・月 | ・るみえが年度末に定員9人のホームを18人に増やす方向。 | | ・ノエル福祉会のホーム整備 | |
| | ヘルプ | *大津市でサービス提供している事業所 ・居宅介護64箇所 ・重度訪問介護57箇所 ・行動援護 12箇所 ・同行援護 28箇所 | ・居宅介護 箇所 ・重度訪問介護 箇所 ・行動援護14箇所 | ・重度訪問介護や行動援護の支援を実際に提供してくれる事業所が不足している。 ・精神の方が利用できる事業所も限られている。 ・夜間や早朝にサービスを提供できる事業所が少ない。 ・男性のヘルパーが不足している。 | ・重度訪問介護や行動援護の支援も可能なヘルパーの確保とスキルアップに向けた取り組み | *居宅介護 ・平成26年度:768人・月 13594時間・月 ・平成29年度:925人・月 16373時間・月 | *居宅介護 ・平成29年度:825人・月 、14649時間・月 ・平成32年度:971人・月 、17451時間・月 | ・ヘルパーの確保と安定した支援体制 | | | |
| 余暇 | 移動支援 | ・78箇所(登録事業所) ・36箇所(車両送迎可) ・46箇所(大津市内) | ・15箇所(大津南部) →車両送迎ありは5か所 | ・車両送迎の可能な事業所の数が少ない。特に車椅子の方が利用できる事業所が少ない。 ・車両送迎の支援の利用者負担が少ないため、希望者が多い。 | ・ヘルパーの確保に向けた働きかけ ・移動支援において車両送迎できる事業所の確保 | ・平成26年度848人・月 58851時間 ・平成29年度1041人・月 、72245時間・月 | ・平成29年度870人・月 59138時間 ・平成32年度912人・月 、61651時間・月 | | | | |
| | 日中一時 | ・39箇所(登録事業所) ・25箇所(大津市内) | ・14箇所(通所施設やショートでの日中一時も含む) | ・成人の方を平日や週末に受け止める日中一時が少ない。 ・医療ケアのある重心や行動障害を呈する形を受け止められる事業所が限られている。そのため、希望に対して利用回数に制限がある。 ・生活介護事業所後に同一施設での日中一時の利用の希望が増えている。 | ・成人の方の夕方や週末に過ごせる送迎体制もある日中一時支援事業所の確保。 ・通所施設での日中一時支援事業の提供 ・医療ケア等ある方の過ごせる日中一時支援の確保 | ・平成26年度663人・月、35か所 ・平成29年度833人・月、41か所 | ・平成29年度765人・月、39か所 ・平成32年度876人・月、45か所 | | | ・ひまわりはうすの日中一時にて医療的ケアの必要な方や重度知的の方の受け止めの拡充 | |

大津南部これから会議 資源整備表

| 項目 | | 全域での資源の状況 | 南部の資源の状況 | 現状と課題 | 必要な支援と資源 | 障害福祉計画 26年度実績値 29年度目標値 | 障害福祉計画 29年度実績値 32年度目標値 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021以降 | |
|----------|-------|--|--|---|--|--|--|--|------------------------|--|--|--|
| | 放課後デイ | ・27箇所 | ・10箇所 ・草津の放課後等デイを利用されている方もいる。 | ・放課後デイサービスの事業所数は増えており、利用希望者も増加している。但し、支援の質の担保や重度の方の受けとめが出来ない事業所が多い。小学校低学年の段階や学童を利用できる方でも放課後デイを希望している方も増えている。 | ・質の担保 ・児童クラブの改善 ・行動障害や重心の方でも利用できる放課後デイの整備。 | ・平成26年度152人・月 ・平成29年度300人・月 | ・平成29年度353人・月 ・平成32年度444人・月 | | | | | |
| | 就労 | ・生活訓練:8箇所 ・就労移行支援:11か所 ・社会的事業所:4か所 ・就労継続支援A型:5か所 ・就労継続支援B型:28か所 | ・生活訓練:4か所 ・就労移行支援:6か所 ・就労継続支援A型:4箇所 ・就労継続支援B型:10か所 ・社会的事業所:3か所 | ・大津ならではの就労支援の3箇所目が平成30年4月に美輪湖の家大津が坂本に開所。大津ならではの意味や効果を本人や家族にどうアピールして標準にしていけるか。 ・就労継続支援事業所から一般就労への移行の促進。 ・就労継続支援B型の事業所は増えているが、送迎等の支援がないためにニーズとマッチングしていないところもある。 ・就労移行支援事業所の活用 ・大津市内での一般就労するための職場の開拓 | ・工賃(賃金)の一層の向上とそのための計画、並びに支援の質の向上 ・就労継続支援から一般就労への移行に向けた取り組み ・就労継続支援B型の今後の在り方に関する検討 ・大津ならではの就労移行支援を活用した就労支援の展開 | *生活訓練 ・平成26年度36人・月 ・平成29年度42人・月 *就労移行 ・平成26年度66人・月 ・平成29年度93人・月 *就労A ・平成26年度104人・月 ・平成29年度118人・月 *就労B ・平成26年度524人・月 ・平成29年度590人・月 | *生活訓練 ・平成29年度63人・月 ・平成32年度87人・月 *就労移行 ・平成29年度75人・月 ・平成32年度116人・月 *就労A ・平成29年度117人・月 ・平成32年度129人・月 *就労B ・平成29年度545人・月 ・平成32年度584人・月 *就労定着支援 ・平成32年度15人・月 | | | ・共生シンフォニーが重心の生活介護の整備と併せてくれおカレッジの移転を検討。 ・ひまわりはうすから他法人へのスコラの事業所移行 | ・障害福祉計画では平成32年度末には以下の目標を設定。 ①就労施設から一般就労の移行 24人 ②就労移行支援の利用 116人 ③就労移行支援からの就労移行率 4割 ④就労定着支援1年後定着率:8割以上 | |
| 障害 種別 | 精神障害 | ①就労移行支援:1箇所 ②就労継続支援B型:8箇所 ③生活訓練:2箇所 ④地域活動支援センター:2か所 | ・就労移行とB:ほわいとクラブ ・生活訓練:りぼんスイッチ ・地活:やすらぎ | ・住まいの場の確保が困難。精神の人のグループホームはほとんどなく難しい。アパートでの一人暮らしは支援が入るほど住宅会社はひいてしまう。 ・就労支援については特化された部分があり知的障害の人を支援する事と同様あるいはそれ以上に就労支援しやすいのでは。退職も多いが。 | ・住まいの場の確保に向けた、不動産業界や地域への啓発活動 ・自立生活援助の活用、祝は体験できる場や精神障害の方の対応もできるグループホームの整備 | | | | | | | |
| | 行動障害 | ・知的の方の生活介護17か所 ・行動障害を呈する方が利用している生活介護は9箇所 | ・さくらはうす ・ほかほか ・いちばん星 ・ステップ広場ガル ・愛育苑(瑞穂、夢造舎) | ・行動障害の方を新規で受け止めるサービス提供事業所が不足している。 ・余暇の過ごしに関して、対応できるヘルプ事業所が限られており、希望通りに利用できない。 ・レスパイトのためのショートステイの利用が職員体制等で希望通りに出来ない。 | ・行動障害の方の受け止めに円滑にするためのスーパーバイズ機能の拡充。 ・いちばん星の生活介護の機能の拡充 ・さくらはうすの行動障害の方のより適した環境への移行に向けた取り組み。 ・マンツーマン対応が必要な方のショートステイの利用。現実的にはショートの場合貸してヘルプ利用か。 | *生活介護 ・平成26年度521人・月 ・平成29年度642人・月 *訪問入浴 ・平成26年度32人・月 ・平成29年度38人・月 *施設入浴 ・平成26年度0人・月 ・平成29年度4人・月 | *生活介護 ・平成29年度551人・月 ・平成32年度631人・月 *訪問入浴 ・平成29年度36人・月 ・平成32年度38人・月 *施設入浴 ・平成29年度0人・月 ・平成29年度1人・月 | ・さくらはうすを利用する大津市南部の行動障害の方のいちばん星での受け止めの検討。 | | ・ガルの敷地内ホームの整備 ・行動障害を呈する方の拠点となるホームの整備 | | |
| | 身体障害 | ・身体障害の方が利用している通所施設2箇所 ・就労B:1箇所、生活介護1箇所 | ・生活介護:まちかどプロジェクト、すまいる | ・重度の身体障害の方が日中通える施設が少ない。療養介護対象の方の受けとめを重心の生活介護でしている現状がある。 ・むれやま荘の機能訓練の事業を利用している方も多い。 ・短期入所として清湖園、湖南ホームを利用している方多い。 | ・重度の身体障害の方の日中通う生活介護の場の確保。 ・訪問入浴や施設入浴の事業所の拡大。施設のお風呂の開放の促進 | | | | | | | |
| | 重心 | ・重心の方をメインで受け止めている生活介護は4箇所 ①さくらはうす ②デイセンター楓 ③デイセンターすみれ ④ピアーズ(草津市) | ・ピアーズ、さくらはうす、すみれ、まちかどプロジェクト | ・医療的ケア児が利用できる放課後等デイサービスが大津市南部に1か所整備されている。しかし、ニーズに足して事業所数が不足している。 ・在宅で訪問看護を利用する方及びレスパイト入院で守山小児を利用する方は多いが、障害福祉サービスを利用されている方は少ない。 ・医療的ケア児は療育は2ヶ所の公立の児童発達支援及び小児センター療育部を利用。 | ・ヘルプや放課後デイや日中一時支援の利用による外出や余暇支援など併用による生活の拡大 ・喀痰吸引制度の活用など職員のスキル向上。医療リスクの高い人への支援:医療支援の向上(看護師確保の課題) ・医療的ケア児の支援体制の整備。医療的ケア児等コーディネーターの配置と医療と福祉の連携の協議の場の設置。 | | | 医療と福祉の連携の協議の場の設置。 | ・障害児協会が一里山に重心対応のホームの整備 | ・共生シンフォニーが重心の生活介護の整備を大津市大萱に検討。 ・さくらはうすで医療的ケアの必要な方の受け止めができる体制を整備。 ・医療的ケア児等コーディネーターの配置 | | |

大津南部これから会議 資源整備表

| 項目 | 全域での資源の状況 | 南部の資源の状況 | 現状と課題 | 必要な支援と資源 | 障害福祉計画 26年度実績値 29年度目標値 | 障害福祉計画 29年度実績値 32年度目標値 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021以降 |
|----|-----------|----------|-------|----------|------------------------------|------------------------------|------|------|------|--------|
|----|-----------|----------|-------|----------|------------------------------|------------------------------|------|------|------|--------|